

(公財) 地震予知総合研究振興会
長岡平野西縁断層帯の活動性評価に関する研究委員会 (第9回)

概要報告

1. 日 時 平成26年3月6日(木) 13:30~17:00

2. 出席者

主査	東北大学	名誉教授	長谷川 昭
委員	東京大学	名誉教授	阿部 勝征
	産業技術総合研究所		阿部 信太郎
	東京大学地震研究所	教授	岩崎 貴哉
	東北大学	准教授	岡田 知己
	防災科学技術研究所		岡田 義光
	東京大学地震研究所	教授	小原 一成
	日本大学総合科学研究所	教授	工藤 一嘉
	東京大学地震研究所	准教授	酒井 慎一
	名古屋大学	教授	鷺谷 威
	東京大学地震研究所	教授	佐藤 比呂志
	防災科学技術研究所		関口 渉次
	東京大学地震研究所	教授	平田 直
	株式会社ホームサイスマメータ		堀内 茂木
	顧問	東北大学	名誉教授
(公財) 地震予知総合研究振興会会長			高木 章雄
事務局	(公財) 地震予知総合研究振興会		

(敬称略)

3. 議第

- (1) 平成25年度の活動報告等
- (2) S波読み取りの高精度化について
- (3) 高田平野断層帯海域延長部における断層分布と活動性

4. 委員会の状況

平成25年度の活動報告として①平成25年度報告書（案）について、②地震活動状況等について、③GPS観測結果等について説明があったのち、観測データの利用法、大地震時の地盤変状等の幅広い分野における最新の調査研究について話題提供があった。

(1) 平成25年度の活動報告

平成25年度の活動報告が行われた。

- ① 平成25年度報告書（案）について説明が行われ、委員会でその内容が確認された。
- ② 本検討で整備した稠密地震観測網（AN-net）の維持管理状況および地震活動状況の説明が行われ、委員会では、トモグラフィ解析結果と震源分布の関係、気象庁による一元化震源との比較等について意見交換が行われた。特に、トモグラフィ解析において、初期構造の与え方について指摘があり今後検討することとなった。
- ③ GPS観測結果等について、観測網の維持管理状況、データ処理の状況及び観測データをもとにした中越地域の地殻変動モデルについて説明がなされた。委員会では、地殻変動モデルの考え方について活発な議論が行われた。

(2) S波読み取りの高精度化について

観測データの利用法の最新動向として、S波読み取りの高度化について紹介された。稠密地震観測などにおける大量のデータを処理するには、P波・S波の到達時間を自動処理により読み取る必要がある。本検討では、新たなアルゴリズムの追加により改善が図られている。委員会では、人の手で行われる気象庁一元化震源と本検討手法で解析可能な地震の違い等について整理して欲しいとの要望が出された。

(3) 高田平野断層帯海域延長部における断層分布と活動性

最新の調査研究に関する話題として、高田平野断層帯海域延長部における断層分布と活動性について紹介があった。委員会では、周辺の断層帯との関係性について意見交換が行われた。

以 上